

体 育 科

体 育 部 北浦 佑基 石塚 祐子 根岸 恵子
研究協力者 鬼澤 陽子

I 体育科における「社会に変革を起こす子ども」について

運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども

本校の学校教育目標「つよく ただしく かしこく」を具現化した児童を育成するために、体育科の学習では、体育の見方・考え方を働かせながら、三つの柱が相互に関係し合うことを活性化することにより、「自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決し、運動の楽しさや喜びを味わう資質・能力」を育むことが必要である。

自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決し、運動の楽しさや喜びを味わう資質・能力

(1) 知識及び技能

各種の運動の行い方についての知識及び運動の基本的な動きや技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

各種の運動の課題に対する解決策を見付ける力や活動を工夫する力、練習方法を選択する力、考えたことを他者に伝える力

(3) 学びに向かう力、人間性等

各種の運動に進んで取り組み、約束を守ったり、仲間の取組を認めたり、場や用具の安全に気を付けたりして運動をする態度

<「自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決し、運動の楽しさや喜びを味わう資質・能力」についての三つの柱>

過程	学習活動
つかむ	技調べや試しのゲームを行い、クライマックスのイベントを知り、共通のめあてを立てる
追究する	課題をつかむ 目標とする動きから動きのポイントを見付ける 動きのポイントや解決策を基に運動する 自己や仲間の動きを評価・判断する 見いだした解決策を動きや言葉で伝える 課題を解決する ※点線内をくり返す
まとめる	クライマックスイベントに取り組む 共通のめあてに対して学習の振り返りを行う

<本校体育科の問題解決的な学習>

体育科の問題解決的な学習において、児童は、運動やスポーツと出会い、運動の楽しさや喜びの実感に向け、共通のめあてを立てる。次に、運動に対する課題をつかむ。その課題の解決に向けて、目標とする動きから動きのポイントを見付ける。見付けた動きのポイントを基に運動に取り組み、目標とする動きと取り組んだ動きを比較し、取り組んだ動きを評価・判断する。そして、取り組んだ動きを評価・判断して見いだした解決策を動きや言葉で伝え、それを基に運動する。このような学習を繰り返すことで、課題を解決し、自己や仲間の動きを目標とする動きへと変容させていく。本研究で捉える解決策とは、課題の解決に向けて、児童が考えたことを動きや言葉で表現するものである。したがって、解決策には、目標とする動きから見付けた動きのポイントの他にも、こつや勘、これまでの学習経験で身に付けたことなどが含まれる。

このような問題解決的な学習において、運動の特性に応じて目標とする動きを捉えて見付けた動きのポイントや、取り組んだ動きを評価・判断して見いだした解決策を伝え、自己や仲間の動きを目標とする動きへ導く姿が見られた。このような姿を、体育科における「社会に変革を起こす子ども」に相当する姿と考えた。

本研究で捉えた「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」の姿は、資質・能力の三つの柱が相互に関係し合うことを活性化している姿であり、体育科の問題解決的な学習の中で、以上のような姿が現れることを積み重ねることにより、本校体育科で捉えた資質・能力を育成することができる。

2 体育科における「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れるための学習指導の工夫

以下は体育科の学習を全体研究で示している情報活用の4つの局面を捉えたものである。

【情報の収集】運動の特性に応じて目標とする動きを捉え、動きのポイントを見付ける
【情報の吟味】目標とする動きと動きのポイントを基に取り組んだ動きを比較する
【情報の関連付け】共通点や相違点から自己や仲間の動きを評価・判断し、解決策を見いだす
【情報の処理・表現】見いだした解決策を基にした動きで取り組む

本校体育科の問題解決的な学習の中で、「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」は「自己や仲間の動き」「自己や仲間の動きを評価・判断したこと」「こつや勘」「動きのポイント」「これまでの学習経験」などの情報を活用している。その中で、運動の特性に応じて目標とする動きを捉えて見付けた動きのポイントや自己や仲間の動きを評価・判断して見いだした解決策を伝えて、自己や仲間の動きを目標とする動きへと変容させることができていた。一方で、次のような姿も見られた。

- ・目標とする動きから動きのポイントを見付ける際に、目標とする動きのどこに着目してよいか分からず、運動の特性に応じて目標とする動きを捉えることができない。【情報の収集】
- ・取り組んだ動きを評価・判断したことに適した解決策を見いだすことができない。【情報の関連付け】

体育科で取り組む運動やスポーツは、楽しみ方や解決すべき課題、その解決方法が異なることに加え、動きは一瞬で再現することができず、目標とする動きや取り組んだ動きを運動の特性に応じ

て捉えることが容易ではない。したがって、ICT機器を活用し、目標とする動きや取り組んだ動きをスロー再生などを用いて動きを何度も見返すことは、大変有効である。また、体育科は、運動をとおして学習することが中心となるため、十分に運動量を確保することが欠かせない。

これらのことから、「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」の姿が現れるようにするためには、目標とする動きや取り組んだ動きを運動の特性に応じて捉えることや十分に運動量を確保した上で、ICT機器を用いることが欠かせない。そこで、以下の学習指導の工夫を行うこととした。

動画で示された目標とする動きを運動の特性に応じて捉えるための視点の提示

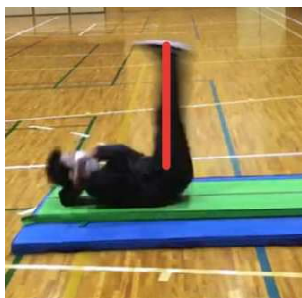
体育科の問題解決的な学習において、「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」の姿が現れるためには、目標とする動きから動きのポイントを見付ける際に、目標とする動きの運動の特性に着目する必要がある。そこで、一過性の動きを運動の特性に応じて動きを捉えることができるように、動きのポイントを見付ける際に、運動の特性に応じて動きを捉えるための視点を提示する。運動の特性に応じて動きを捉えるための視点は、運動の場面や局面に合わせて示す。場面とは、コート上の範囲、技を構成する要素、演技の構成など一連の動きを区切ったものである。また、局面は主に運動局面の準備局面、主要局面、終末局面である。

この学習指導の工夫では、ICT機器を用いて、動きの基準を示す矢印や図形を動画内に入れるなどの活用を行う。また、目標とする動きの動画をスロー再生やコマ送り再生することにより、視点によって焦点化された目標とする動きをより特性に応じて捉えやすくする。目標とする動きの動画は、ネットワーク上の共有フォルダにアップロードしておき、児童が必要なときに視聴できるようにする。

第5学年「マット運動」

◎伸膝後転の動画を運動の特性に応じて捉えるための視点の提示

視点	「膝の伸び」「手の着き替え」「足をつく位置」
ICT活用	・伸膝後転の動画のスロー再生 ・膝の伸びに赤線を書き入れる



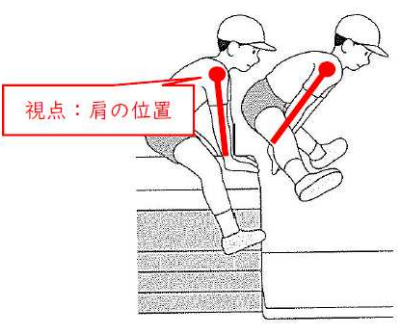
○見付けた解決策

「伸膝後転は、最初から最後まで膝を伸ばすのだな。」

「手を着いた後、素早く着き替えて耳の横に着くとよいのだな。」

「足を頭の近くに着くとよいのだな。」

<運動の場面や局面に合わせた視点の例>

内容	取り組む動き	場面や局面	運動の特性に応じて動きを捉えるための視点
第6学年 マット運動	倒立ブリッジ	倒立姿勢	 視点：倒立の時の目線
第5学年 ハーフコートバスケット	得点しやすい位置に移動する動き	ゲーム開始直後	 視点：動く方向 視点：動き出すタイミング
第2学年 跳び箱遊び	またぎ下り	主要局面 体を手で支持しながらまたぎ下りる	 視点：肩の位置

取り組んだ動きを動画を用いて評価・判断したことを基に、解決策を見いだす機会の設定

体育科の問題解決的な学習において、「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」の姿が現れるためには、取り組んだ動きを評価・判断したことに適した解決策を見いだすことが欠かせない。そこで、取り組んだ動きを動画を用いて評価・判断したことを基に、解決策を見いだす機会を設定する。

取り組んだ動きを評価・判断したことに適した解決策を見いだすためには、児童の中で、目標とす

る動きが共有されていることが必要である。また、児童が自己や仲間が試行する解決策を自覚していることが必要である。さらに、取り組んだ動きを運動の特性に応じて動きを捉えることのできる位置で撮影する必要がある。撮影する位置については、運動の特性や焦点化する場面や局面に応じて決定し、教師から児童へ伝える。また、課題に応じて、撮影する動画を局面や場面に限定する場合や一連の流れを撮影する場合があるので、教師から撮影の方法についても伝える。取り組んだ動きを評価・判断したことを基に解決策を見いだす手順は以下のとおりである。

①目標とする動きを共有する。

- ・動画や連続図、作戦板などで目標とする動きを視覚化する。

②自己や仲間が試行する解決策や学級全体で試行する解決策を伝え合い、共有する。

- ・試行する解決策を明確に他者に伝えることにより、自覚を促す。

③撮影した動画を視聴し、試行した解決策に照らして、自己や仲間の動きを評価・判断する。

- ・局面や場面、一連の流れに分ける。
- ・動画を再生する際には、スロー、コマ送り再生を活用する。
- ・試行しようとした解決策が動きで表現できない場合も考えられるので、その場合は、②にもどり、再度試行する。

④取り組んだ動きを評価・判断したことを基に解決策を見いだす。

- ・ペアやグループの中で、ローテーションを行い、見いだした解決策を伝える機会を一人一人に保障する。

以下は、これまでに示した2つの学習指導の工夫を活用した具体例である。

— 第3学年「鉄棒運動」 —

取り組む技：こうもり振り

①目標とする動きを共有する。

- ・こうもり振りの動画を提示する

◎こうもり振りの動画を運動の特性に応じて捉えるための視点の提示

「体の反り」 「顔の向き」

○見付けた動きのポイント

- ・体がカーブするように、体を反る
- ・体を反るときには、前を見るように顔を上げる
- ・体を戻すときには、顎を引いてお腹を見る



②自己や仲間が試行する解決策を伝え合い、共有する。

C1「どんなことに気を付けてやってみる？」

C2「体を振るときに、前を見るように顔を上げてみるね。」

③撮影した動画を再生し、試行した解決策に照らして、自己や仲間の動きを評価・判断する。

C2「顔がしっかり拳がっているね。でも体を戻すときには勢いがないね。」

④取り組んだ動きを評価・判断したことを基に解決策を見いだす。

C1「体を戻すときに、グッと顎を引くようにすると、勢いがつくよ。」

<運動の特性や焦点化する場面や局面に応じた撮影位置の例>

【走り高跳び】	【フラッグフットボール】	【鬼遊び】
		
バーの真ん中から撮影 ↓ 踏切り姿勢を真横から捉える	スタートゾーンの後ろから撮影 ↓ 全体の動きを捉える	攻めと守りの2人を撮影 ↓ 1対1の攻防を焦点化

3 成果と課題

本校体育科では、「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」の姿が現れるよう、その授業における具体的な姿や学習指導の工夫について研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

各種の運動の特性に応じた課題の解決に向けて、運動の特性に応じて目標とする動きを捉えて動きのポイントを見付けることができた。また、取り組んだ動きを評価・判断したことに適した解決策を見いだすことができた。そして、運動に取り組む中で、それらを動きや言葉で伝えていた。伝えられた子は、解決策を自己の動きに生かし、目標とする動きへと変容させることができていた。

この姿は、体育科における「運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども」の姿である。これは、本校体育科研究における学習指導の工夫が、目標とする動きを運動の特性に応じて捉えることや取り組んだ動きを評価・判断して見いだした解決策を伝え合うことを促した成果であると考えられる。

○課題

自己や仲間の取り組んだ動きを評価・判断したことを基に見いだした解決策には、これまでの学習経験で身に付けた動きやこつや勘が多く含まれていた。したがって、学習した運動の知識及び技能を様々な場面で活用できる概念としていくことや同領域の運動はもちろん、他の運動領域とのつながりの気付きを促すことが必要である。しかし、これまでの学習経験で身に付けた動きやこつや勘を記録として残すことは難しい。そこで、ICT機器をより活用し、動画や写真、振り返りの記述などの学習成果の保存と活用を進め、既習の内容とこれから取り組む運動やスポーツとのつながりを生む学習指導の工夫を行っていきたい。

【参考文献・資料等】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』，平成30年2月 東洋館出版。
- ・岩田靖【監修】佐藤政臣，富永泰寛【編著】『「資質・能力」を育むボール運動の授業づくり』，大修館書店，2018年。
- ・高橋健夫【編著】『新版体育科教育学入門』，大修館書店，2010年。